

単元名

ヒロシマと二つの世界遺産学習

【単元の概要】

「広島に二つの世界遺産がある意味を考えよう」をコンセプトに広島・廿日市の歴史や伝統文化の学習を行い、これまで単体としての理解から過去・現在・未来とつながっていく「かけがえのないもの」としての認識を深め、最後に「世界平和に向けての提言」と「世界遺産を守り伝えていくための提言」をまとめ、持続可能な社会づくりのために、自分たちがやらなければならないこと、できることを考える。

【連携諸機関・人物】

市役所（シティプロモーション室）
広島原爆資料館
被爆証言語り部の方
中国地方海運組合連合会・専務理事
宮島歴史民俗資料館・学芸員

◆単元の目標

「ヒロシマ学習」「二つの世界遺産の比較学習」を通して、ふるさと広島・廿日市の理解を深めるとともに、これからの持続可能な社会の実現に向けて自分たちの考えをまとめる。

◆学習活動の実際（全22時間）

学習活動	他教科等との関連
（１）「ヒロシマ学習」 〈課題の設定〉 ○「ふるさと学習」「ヒロシマ学習」の意義と学習計画の確認オリエンテーション 〈情報収集〉 ○「ヒロシマ」の過去の歴史と現在の課題等について考える。 ○廿日市の被爆者の証言：DVD「はつかいちの証人」視聴 ・知っていたことと知らなかったことを考える ○なぜ、「広島」に原子爆弾が落とされたのか考える。 ○校外学習（ヒロシマ学習）事前指導 ・校外学習の内容確認 ○校外学習（9/2）の計画 ・原爆資料館の見学 ・被爆体験講話 ・広島港クルージング（銀河Ⅱ乗船・昼食・海から見た広島市、廿日市市） ・船と港の役割を学習 〈整理・分類〉 ○「ヒロシマ学習」のまとめ ○「世界平和に向けての提言」作成	   【社会】 ・「第二次世界大戦と日本」 ・「戦後日本の成長と国際関係」において、大戦の原因や概要、戦後の日本の復興とその役割について学んだことで、様々な関連から世界平和についてまとめた。 【理科】 ・「分子と原子」において「原子・分子とは何か」について学び、核分裂や核融合について興味を持つことができた。 【国語】 ・「観察・分析して論じよう」で観点を決めて比較分析することで、根拠の明確なわかりやすい意見文を書くことを学び、これを踏まえて提言を書くことができた。
（２）「二つの世界遺産学習」 〈課題の設定〉 ○「二つの世界遺産学習」の意義と学習計画の確認 〈情報収集〉 ○世界遺産があることの意味について考える。 ・世界遺産について考える。 ・ESD（持続可能な社会を創造していくために）と世界遺産の関係を考える。 ・宮島と厳島神社の歴史について知る。 ・先人たちの思いと私たちが考えなければならないこと。	

〈整理・分類〉 ○「二つの世界遺産学習」のまとめ ○「世界遺産継承への提言」作成 〈まとめ・表現〉 ○持続可能な社会づくりのために、自分たちがやらなければならないこと、できることを考える。 ○文化祭での展示づくり・展示発表 〈実行・振り返り〉 ○振り返り	【社会】「私たちと国際社会」 【理科】「地球と私たちの未来のために」 ・今回の学びが、3学期に行ったこれらの授業と関連しており、「持続可能な社会に向けての提言づくり」がとても有効に機能した。
---	--

【児童生徒の感想・振り返り】

- ・88歳の語り部の方のお話は壮絶なものでした。広島に原爆が落ちた1945年8月6日のことは、決して物語ではなく現実の話なのだと実感しました。
- ・原爆資料館の見学、14歳で被爆された語り部の方の生の体験談をうかがって、これから平和な世の中を続いていくために自分たちが何をしなければならないか、改めて考えさせられました。
- ・宮島の人たちが宮島を後の人たちに守り伝えるために、大変な思いをしてきたことを知り、自分たちができることを本気で考え、まとめることができました。
- ・最後に提言をまとめようとしたら、なかなかまとめることができず、実際に自分がどうするべきかと考えることはとても大変でしたが、こうすることに意味があると実感しました。

【効果のあった「授業展開」または「指導の工夫」等について】	【児童生徒の変容】
・「持続可能な社会づくり」に向けたE S Dの観点で導入から意識して取り組んだ。 ・ゲストティーチャーや体験学習など、座学による調べ学習だけでなく、実践的な学習を仕組んだ。 ・二つの学習とも最後は、文化祭の展示発表資料「持続可能な社会づくりに向けた提言」としてまとめ、相手意識やプレゼンテーション力を高める取組を行った。	・地域だけの学習や個人的な学習ではない、グローバルな学習というイメージを持つことができた。 ・これまで漠然と知っていたことや単に知識としてだけのことが、詳しく知ることによって、より身近なものとして実感することができた。 ・「持続可能な社会づくりに向けた提言」というキーワードを意識して取り組むことで、自分たちの行動や考え方を内からしっかりと見つめ、考えることができた。
【今後に向けた「改善点」】	
・1年次、2年次の時の学習では地域理解や比較文化の観点の取組が中心だったので、3年次のように最初からE S DやS D G 'sの観点からの取組を明確にして、自分たちだけでなく世界とつながっていく「持続可能な社会づくり」に向けた取組として行えば良かった。 ・今回、中国地方海運組合連合会の協力で実現した「平和学習」「船と港の役割の学習」が、1回限りのものにならないように引き続き関係機関と連携していく必要がある。	

